

挑戦する勇気を持つ者のみが見られる風景がある

有限会社BIG WAVE 代表取締役 小林忍さん

ピンバッジのデザインと製作を専門に行っている「有限会社 BIG WAVE」。ピンバッジという、大きさにしてわずか数センチの世界に懸ける同社取締役社長の小林忍さんの原点とは？ 起業のきっかけ、事業をピンバッジ一本に絞り込んだ理由、経営者としての信念、座右の銘や心に留めている言葉、今後の展望などを尋ねた。

■ 勤めていた会社が突然倒産！

私が起業を決めたのは、勤務先の突然の倒産がきっかけでした。予想もしない出来事だったのでショックを受けましたが、落ち込んでいても何も始まりません。長年抱いていた「自分で会社をやりたい」という想いから「きっと起業のチャンスを与えてもらったのだ」と考えることにして、一歩を踏み出してみようと決心したのです。

■ 【脱サラ→自営】の父と支え続けた母

そもそも独立・起業を目指したのは、脱サラして自営業を始めた父とその父をサポートする母の姿を見て育ったからだと思います。両親の背中に、自ら会社や事業を創りあげる醍醐味や面白み、リスクを背負ってでも挑戦することの価値や意義を感じたのかもしれませんが。そしてその価値とは、経営者だけにしか見ることのできぬ景色だったり出会えぬ人だったり、勇気を出して歩を進めた者にのみ開かれた世界のことだと感じました。しかし、意欲はあっても肝心の資金や事業計画はなく…おそらく、夫からの資金援助と起業への理解、妹2人と弟の助言とサポートがなければスタートラインにすら立てなかったことでしょう。家族には今も本当に感謝しています。



■ 積極的な営業と堅実な経営

開業当初は広告代理店での勤務経験と知識を生かして、知人・友人の依頼でチラシやパンフレットの製作を請け負うことから始めました。しかし、当時は長野冬季五輪開催直後の平成不況の真只中で、広告代理業を続ける厳しさは強く感じていました。そんな中、ピンバッジにはかなりの手応えが感じられたうえ、インターネットを活用したビジネスが盛んになっていた時代背景もあり、ピンバッジに的を絞ってのネットを駆使した事業展開を進めようと決断。以降は「営業と商品開発は積極的に、経営は身の丈で」をモットーに、攻めの姿勢を保ちながらも予算組み等では奢り・過信・勘違いを排除すべく、経営者としての自分を厳しく律するよう意識しました。



■ 「NO GUTS, NO GLORY」の精神で

「NO GUTS, NO GLORY (勇気なくして栄光もなし)」という言葉と「どれほどの大企業でも人は人」「何があっても命まではとられない」という教えを大切にしています。本気の商売をしていれば良い時／悪い時、成功／失敗がありますが、結局はすべてが人対人なんです。私は常にそう自分に言い聞かせています。

「経営者として自ら実践されてのお言葉ですから、説得力が違います！」と、迷ったら先輩方に助言を求めるという小林さん。今後は、現在の主軸である受注発注から、2020年東京五輪を見据えた自社開発・提案型の製品づくりへのシフトチェンジを加速させるつもりだ。

現在放送中の大河ドラマ真田丸の特許商品の“丸族バッジ”も好評発売中！

小林忍（こばやし・しのぶ）
有限会社BIG WAVE 代表取締役

長野市生まれ、長野市で夫と二人暮らし、歴史好き。全国の名勝、史跡、戦国武将ゆかりの地、寺社などを巡るのが最高のリフレッシュ法なのだとか。

